

2021年5月9日 聖餐式説教

主イエスは、復活されてから四十日間この世におられました。そして様々な人びとの所に現れ、主イエスがいなくなってしまうと悲しみ落胆している人達に勇気と希望をお与えになりました。弟子達も主イエスが十字架にかかられたとき、恐ろしさのあまり一目散に逃げてしまいました。一番年長だったペテロは弟子になる前と同じように漁師に戻ってしまいました。そこへ主が現れ、弟子達は皆再び強められて主なる神の御用のために進んでいったのでした。

さて、今年の復活祭、イースターは4月4日でした。復活祭は3月21日以降の満月の次の日曜日と定められておりますので毎年日が変わります。今年は今週の木曜日でちょうど40日になります。この日主イエスはこの世を離れて天国にお帰りになられました。私達の教会でも同じようにこの40日間を記念して過ごしているわけですが、従って今週は主イエスがこの世におられた最後の週となるわけです。主イエスが最後に私達のおしえられた言葉を本日は学んでみたいと思います。

さきほどの福音書をもう一度見てみましょう。

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。

互いに愛し合いなさい。これが、主イエスが最後に私達におしえられた言葉でした。愛し合うといいますと、皆さんはどんなことをお考えになるでしょうか。人を愛するという事は素晴らしいことであり、私達人間は愛されることなくして生きて行くことは出来ないからです。

しかし主イエスは、愛し合うということは簡単なことではないこと、それは命を掛けて取り組んだとしても大げさすぎることはない…、とされているのです。

私達の中で死ぬのが恐くない人がいるのでしょうか。おそらくそんな人はいないことでしょう。なぜならば死んでしまったらこの世での自分の生涯は終わるからです。もし明日死ななければならぬということになったら私達はどのようにして生きていくのでしょうか。もっと色々なことをしたかった、あれも出来なかったこれも出来なかった、とても残念だ、そう思うことでしょうか。実際人間は何歳になって

も死ぬときにはそう思うのかも知れません。私の一生はもうこれでよいと、本当に納得できる人は少ないに違いありません。

人間はこのように自分の命が何よりも大切に思っています。どんな大金を手に入れたとしても、その瞬間に死んでしまったら何にもならないと思うからです。自分の命は何物にも替えられない尊い存在であることがよくわかります。

そのような私達に対し、主イエスは自分の命をもおしまない愛で自分を満たしなさいと言われたのです。すなわち自分の持っている欲や願い、自分の都合のよさを捨てて、自分のすべてをなくして、その人を、またすべての人を愛しなさい。と言われたのでした。私達は皆自分が大切です。自分の欲や希望、都合を捨ててなどということは決してやさしいことではありません。しかし主イエスは、そこにとどまっているうちは主なる神のことも主イエスのことも本当にはわからない、主なる神が私達人間を愛していることも、私達が自分本位の愛から飛び出して、何をも惜しまないで愛することを学ばなければ、本当の幸福を感じることは出来ないのだと教えているのです。

主イエスは十字架にかかれて命を失いました。主イエスは主なる神でしたが、私達と同じ肉体を持つ者として、やはり死は大きな存在でありました。十字架にかかるため捕えられる直前、主イエスは、できるならばこの苦しみから逃れさせてください、と熱心に祈られました。主イエスにとっても死は大きなことだったのです。しかし主イエスは死に負けず、私達人間に本当の愛を教えるために十字架の上で死なれたのです。私達が互いに愛し合うため、その模範を示すため、主イエスは死なれたのでした。そしてこれは決して不可能なことではないこと、不可能どころか人間が知らなくてはならない、学ばなければならない大切な愛であることを示されたのでした。

今日は主イエスが教えられた愛とは、相手のために自分を全く捨てて愛することであり、主なる神が私達を愛されているとは、そういうことであるのをよく覚えたいものであります。